



九条の樹

102号
2023年9月発行



発行：東久留米「九条の会」 連絡先：TEL 042-473-9489 (鈴木)

http://higashikurume-9.net/ メール：higashikurume9j@gmail.com

麻生さん、今

「戦う覚悟」が必要ですか？

8月8日麻生太郎自民党副総裁は台湾の訪問先で講演し「最も大事なことは台湾海峡とその周辺で戦争を起こさせないことだ。日本、台湾、米国をはじめとした有志の国に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている。戦う覚悟だ」と述べた。

台湾と断絶した1972年以来初めての自民党副総裁の公式訪台での発言で、政府はこの発言についてコメントしていない。(8月9日「朝日」)。

不思議なのは抗議したのは野党(立憲、共産)だけで大手新聞各紙は、コメントなしの点だ。

背景に岸田軍拡と改憲

麻生さんの発言がなぜ出てき

たのか背景を考えたい。

出発点は安部政権だ。14年に閣議決定で集団的自衛権行使容認に踏み切り、それを法定化する安保法制を強行採決した。アメリカの世界戦略も中国との覇権主義、対中国軍事対決戦略に変わっていく。アメリカは台湾有事に、日本全土の戦争拠点化、中国との戦争に武力での加担を求めてきた。

これにこたえたのが岸田政権の「安保3文書」改定、軍拡、改憲だ。

そのためには自衛隊大改造が必要で攻撃型兵器、長距離ミサイル配備や、相手の基地の動きなどを細かく監視するための軍事衛星など、莫大な予算を必要

とする。大増税、国民負担増など、これらのために、憲法9条の制約を、何が何でも取り払おうとしている。

岸田政権のこうした動きが、麻生副総裁の訪台、そして「戦う覚悟」発言が飛び出した背景にある。

破滅的戦争ストップのために

二度と戦争をしないと決めた私たちは、自衛隊の若者を殺させてはならないし、中国の人たちを殺してはいけない。そのために何ができるのか。大軍拡に反対するとともに、台湾有事への戦争参加反対。何より来年秋までには憲法改定するという岸田政権のたくらみを阻止したい。

(6月に行われた「若者憲法集会」での渡辺治さん一橋大学名誉教授の講演を参照しました)



もう戦争の準備が始まっていると危機感

三上智恵監督スピンオフ作品上映と 高阪由紀江さん講演

7月17日、「戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会」主催で、三上智恵監督の次回作品『沖縄、再び戦場へ』（仮）のスピンオフ作品上映と、高阪由紀江さん（馬9条の会）の講演会を開催しました。猛暑の中、超満員の84名が参加。



三上監督は、来年劇場公開をめざすドキュメンタリー映画用の素材ですが、より早く全国の市民と危機感を共有したいとの思いで、無料で貸し出し、「観客

に終わらず、戦争を止めるため
いっしょに走ってほしい」と呼



びかけています。

高阪由紀江さんは、5月に行つた「ミサイル配備の島々の宮古、石垣、与那国」について、写真を上映しながら報告、解説しました。石垣島には、今年3月に自衛隊の駐屯地を開設。地对艦誘導弾部隊、中距離地对空誘導弾部隊、警備部隊の計570人が駐屯しています。宮古島にはミサイル部隊高射特科軍、地对艦ミサイル中隊700人が駐屯。

ミサイル基地いらない連絡会や、弾薬庫反対住民の会など、抗う人たちとの交流を行い、元衛生兵の悔恨の短歌や慰安婦の碑の紹介もありました。

感想が多数寄せられましたので紹介します。

・与那国島も宮古島も自然の豊かなのかな島という認識だったのに弾薬庫、ミサイル、自衛隊基地が島民の思いを無視して実態を明確にしないまま、だまし討ちのように基地が入ってきていることすべて驚きました。

・日本が戦争の準備を進めていることがリアルにわかりました。

・署名した人に対して圧力がかかるなんて戦前のように、どうしようもない状況なんだと思ひ、黙っていられないと思ひました。

・十数年前までは考えられなかった、公道を戦闘車両が堂々と使用し、工事が進められていることに大きな危機感を持ちました。住民を分断しながら強行される戦争への準備を止めることの難しさを感した。

・沖縄の島々の内情を聞かせて

頂いてとても勉強になりました。高阪さんの言った「若い人に語っているようで語っていないのでは?!本当のことがわかれば一緒に動いてくれる」という言葉が残っています。



◆「九条の会」からの呼びかけ◆

岸田政権の軍拡に反対し 憲法改悪を阻止する市民 の総決起の秋を創ろう！

6月21日に閉会した第211通常国会では、「安保3文書」の実

行を狙って大軍拡予算とともに軍需産業育成法・軍拡財源法など多くの悪法が成立しただけでなく、憲法審査会を中心に与党と、維新の会、国民民主党などによる改憲の企てが急速に進行しました。岸田文雄首相は、国会閉会後の記者会見で、自らの自民党総裁としての「任期において憲法を改正する努力をする」と、来年9月までの改憲に強い意欲を示しました。岸田首相は、政権延命のため今秋にも解散を狙っていますが、解散・総選挙の結果次第で維新の会が野党第1党になるようなことがあれば、軍拡や改憲の企てが国会にお

いて立憲主義を蹂躪して進行する危険があります。

いま、私たちは、文字通り軍拡と改憲の戦争する国か、憲法の人権と民主主義が活かされる平和な国かの岐路に立っています。

こうした岸田政権の企てを阻止するには、少なくとも首相の公言する来年秋までの改憲を挫折に追い込むまで、この秋から市民が総決起することが必要です。

そのため、九条の会は、首都圏の会を中心に実行委員会を組織し、来る10月5日(木)の夜に「なかのZERO」大ホールで「九条の会大集会―大軍拡反対！憲法改悪を止めよう！」を開催することにしました。「戦争させない・9

条壊すな！総がり行動実行委員会」と「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」にも協賛をお願いし引き受けていただきました。

そして、この集会をステップにして、11月3日の憲法公布記念日を挟む11月を「軍拡反対、岸田改憲阻止の総行動月間」とし、全国各地の九条の会の皆さんや改憲に反対する市民の皆さんが大軍拡と改憲に反対する多様な行動に立ち上がるよう訴えるものです。

今、私たちの周りには困難があります。この間の国政選挙で、改憲勢力は衆参両院とも3分の2を超えています。野党共闘も困難にさしかかっています。しかし、振り返ってみましょう。小泉政権が改憲を提起したとき、衆参両院では改憲に好意的な勢力は3分の2を超えていました。けれども、04

年6月に9人の呼びかけにより九条の会の結成が呼びかけられ全国各地に九条の会が続々結成され改憲反対の声が沸き起る中、世論は大きく変化し、改憲の企図は挫折に追い込まれました。2017年に安倍首相が改憲を提起した時

も衆参両院では改憲勢力が3分の2を超えていましたが、「市民と野党の共闘」の頑張りにも励まされ、憲法審査会でも立憲野党が頑張って安倍改憲を挫折に追い込んだのです。

改憲勢力もたくさん矛盾を抱えています。私たちが立ち上げれば、改憲は必ず阻止することができま

す。全国の九条の会の皆さん、そして改憲に反対する市民の皆さんに、改めて訴えます。この秋、大軍拡に反対し憲法改悪を阻止するため、声を上げ、立ち上がりましょう。10月5日、大集会に集いましょう。そして11月には全国各地、津々浦々から創意を凝らして行動を起こしましょう。

2023.08.03. 「九条の会」事務局

九条の会大集会― 大軍拡反対！ 憲法改悪を止めよう

日時：10月5日(木)
19:00～21:00

場所：「なかのZERO」
大ホール

参加費：999円
(学生・障がい者500円)

問い合わせ：九条の会
TEL.03-3221-5075



日本国憲法は 生きる勇氣

(大門町 西田)

憲法を明確に意識したのは学生時代に教員を志した時だ。平和主義、国民主権、基本的人権の保障など世界に誇れる内容だと、今読んでも生きる勇氣が出る。特に第十章「最高法規」第九十七条の規定です。

「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことので

きない永久の権利として信託されたものである。」

ここには自由民権運動を始め農民、労働者ら民衆の苦闘がある。ところが自民党の『改憲草案』はこの条文をバツサリ削除している。自民党は天賦人権論を敵視し、皇国史観に基づく「伝統」や「家族観」の押しつけを企んでいる。こんな策動は何としても許すわけにはいかない。

昭和20年の地蔵会

(南沢 角田直子)

京都で8月後半、子どもやその家の平安を願う「地蔵会」という行事が町内会で開かれていた。小さい頃祖母宅でその町内の地蔵会を楽しんだ。一回目からの「地蔵会記録」があるのを初めて知った。その中でも昭和20年の記録の一部を皆さんにご紹介したい。

「昭和20年8月 ○回中止 八月十五日、日本ノ歴史ヲ汚シタル完全ナル敗戦ヲ記録シテ日華

事変太平洋戦争ヲ終了シ久シ振りニ世界ノ平和ヲ招来シタルモ日本ハ軍ノ専横ナル侵ロ戦争に国民ガ勝ツト信ジサセラレタ戦ニ敗シ其精神的物質的損害ハ莫大ニシテ当町ハ殊ニ本年春以来ノ空襲激化ト疎開ニヨリ(中略)本年ハ終戦直後ノ混乱情態ニ直面セル際ニツキココニ第〇回地蔵会開催ハ中止スル事トセリ」。記録から、昭和19年は物資がない中で開催され、同21年は繰越金が封鎖されたため改めて寄付金を募ったとある。

◆お知らせ◆

市民集会・パレード

「戦争はイヤ！声をあげよう実行委員会」主催で、「軍拡は戦争への道・税金は国民生活に」をスローガンに、市民集会・パレードを開催します。ぜひ、ご参加ください。

日時：9月18日(月・祝)

午前10時

場所：市役所前屋外ひろば

『平和を考える本』

『シリアからきたバレリーナ』
(キャサリン・ブルートン 作)

偕成社 1500円＋税



シリアで生まれた十一歳の少女・アーヤは、内戦で住めなくなったアレップの街を家族と共に脱出。ようやくイギリスのマンチェスターに着いたが、途中、小さなボートで海を渡る際に父と離れ離れになった。

氣力を失った母を支えつつ、幼い弟を連れて難民支援センターに通い、難民認定を待つ毎日。いつ、シリアに送り返されるかわからない不安な状況の中にいる。

アーヤは言う。――あたしは難民として生まれたわけじゃない。みんなとそんなにちがわないの。というか、ちがわなかったの、と。そんなアーヤを支えたのは、同じ難民のバレエ教師やバレエ好きの少女たちだった。(高田桂子)